



1. 第 2 回茨城県採種部会協議会現地検討会が開催される

新しい調製設備かつら種子センター視察▶



◀ のげ・枝梗のない種子づくり研修

茨城県採種部会協議会（会長 谷田部貞雄）の本年度第 2 回の協議会が 8 月 22 日(水) J A 水戸かつら支店並びにかつら種子センター、現地ほ場において開催されました。

各採種部会、種子センター担当者、普及センター等関係機関 35 名が出席し、①優良種子生産のための、のげ・枝梗対策②水陸稲種子の生育状況・病虫害対策③麦類種子の確保・需給状況④調製設備が新しくなった J A 水戸かつら種子センターの視察研修⑤種子ほ場でのコシヒカリの生育状況等について研修を行いました。

のげ・枝梗対策では、J A 北つくば結城市種子部会北島部会長並びに普及センター寺山副主査より部会員の意識向上のための研修会や情報提供など取り組みに対する事例発表があり、熱心に意見交換が行われました。現地研修では東日本大震災の復旧対策事業の導入で新しくなった、J A 水戸かつら種子センターの調製施設の視察研修や採種ほ場でのコシヒカリの生育状況や稲こうじ病などの病虫害対策について検討を行い、有意義な研修会となりました。

も く じ

1. 第 2 回茨城県採種部会協議会現地検討会が開催される	1
2. 特集記事～茨城の麦を元気にしよう！～	
(1) 県産麦の品質・収量向上対策	2
(2) 大麦新品種「カシマゴール」栽培のポイント	4
(3) 県産麦の販売状況と課題	5
3. 優良種子生産に向けての取り組み	6
4. 協会ニュース	8
(1) 水稲ほ場審査立会から	
(2) 茨城のそばまつり 2012	
(3) 協会のホームページがリニューアルされました。	

2. 特集記事 ～茨城の麦を元気にしよう！～

(1) 県産麦の品質・収量向上対策

農業総合センター 首席専門技術指導員

泉澤 直

1. 本県産麦は低収で品質劣る

茨城県の麦（4麦）の収量は低く、1等比率も二条大麦（大粒大麦）を除き低い値です（表1）。入札価格は、六条大麦（小粒大麦）は高いものの、

小麦と二条大麦は全国で一番低くなっています（H23年産）。生産者の収益を考えると、多収化と品質改善（1等比率向上）は、緊急の課題です。

表1 小麦、六条大麦の収量と1等比率

麦種	県	平成 21	平成 22	平成 23
小麦	茨城	232 (55.5)	213 (45.8)	241 (27.6)
	栃木	346 (90.6)	324 (92.4)	312 (89.7)
	群馬	411 (93.4)	337 (65.5)	386 (66.1)
	埼玉	294 (92.0)	257 (94.2)	288 (77.7)
六条大麦	茨城	188 (36.8)	198 (27.2)	193 (29.1)
	栃木	329 (80.4)	299 (72.3)	300 (73.3)
	群馬	381 (44.9)	324 (33.9)	389 (51.5)
	埼玉	376 (16.1)	384 (8.7)	318 (20.2)

注) 1. 数字は収量 (kg/10a)、() は1等比率%
 2. 1等比率は小麦は普通小麦、六条大麦は小粒大麦の検査結果

2. 品質向上には多収をめざせ！

1等比率を向上させるにはどうしたらよいでしょうか。図1を見ると、収量が多い年ほど、1等比率が高い傾向があることがわかります。収量が多い年は、粒の充実が良く、形もよくなるので、1等比率が高くなると考えられます。このことか

ら、1等比率を高めるためには、粒の充実を良くし、収量を多くする方法を考えることが重要です。多収をめざすためには、湿害軽減、連作障害回避、適期播種、播種深度の適正化などが必要です。

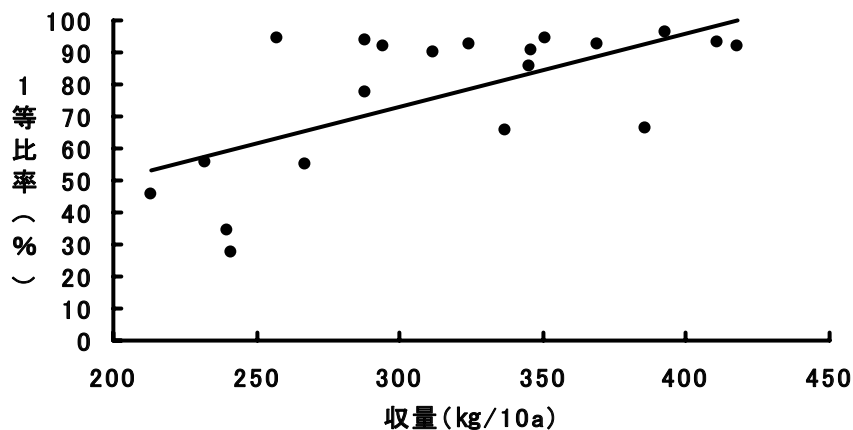


図1 小麦収量と1等比率

3. 多収をめざす例

1) 湿害軽減～みず道を作る～

本県は、大河川の下流に位置し、湿害を受けやすい圃場が多くあります。対策には、暗渠、明渠の設置が前提ですが、図 2 に示した籾殻充填簡易暗渠（モミサブロー）は、溝を掘りながらその中に籾殻を詰めて「みず道」を作り、下方に排水を促します。暗渠がない圃場では、周りに深めの明渠を掘り、簡易暗渠をつなげ、排水路に排水します。実証試験では、慣

行に比べ 16% 多収となりました。



図 2 籾殻充填簡易暗渠

2) 麦の連作間に飼料米を栽培する～連作障害対策～

連作すると、作物は収量・品質が低下しますので、良品生産は 3 年位が限界です。水稻を含めた他作物とのローテーションが理想ですが、難しい

地域もあるでしょう。それに対し、麦と麦の間に早生の飼料米を入れ、その後の麦の多収・高品質を実現した例があります（表 2）。

表 2 飼料米跡の小麦収量・品質

品 種	子実重 (kg / 10a)	千粒重 (g)	等 級	備 考
さとのそら	599	36.7	1 等	飼料米跡
さとのそら	601	38.5	1 等	
農林 61 号 (対照)	374	36.8	2 等	連作圃場

注) 子実重は坪刈り換算

3) 播種深度は大丈夫？

表 3 に示したように、播種深度 2 cm は、5 cm に比べ苗立ち率は 50% 程度高く、収量は 30% 近く多くなりました。調査すると多くの圃場は深播き

で、「播種前に機械の調整はしていない」状態でした。ぜひ、深さ 2～3 cm くらいを目標に種子を播きましょう。

表 3 小麦の播種の深さと生育、収量、品質

播種深度 (cm)	苗立率 (%)	穂数 (本 / m ²)	子実重 (kg / 10a)	等級
5	37	437	367	1 等の下
2	91	567	507	1 等

注) 1. 品種は農林 61 号
2. 子実重は坪刈り換算
3. 1 等の下とは、かろうじて 1 等になったもの

4. 必要な対策は何か

本県麦に対する実需者の見方は、非常に厳しいものがあります。しかし、麦は土地利用型作物と

しても大変重要な作物です。多収、高品質を実現するためには何が必要か？ 今一度、見直してみてください。

(2) 大麦新品種「カシマゴール」栽培のポイント

茨城県農業総合センター農業研究所
作物研究室 大越三登志

平成22年に準奨励品種に採用された麦茶用六条大麦「カシマゴール」は、「カシマムギ」と比較して、大麦縞萎縮病に強い、稈が強く中折れしにくい、成熟期は同等、穂数が多い、粒が小さいといった特徴があります。

栽培にあたっての留意点は以下のとおりで、収量や検査等級1等を確保するために粒を充実させ、品質評価のランク区分基準値を達成するためにタンパク質含量を向上させることが重要になります。

●**播種期**：播種が遅くなると必要な穂数が確保できず、収量が少なくなるので（図1）、11月上旬に播種するようにしてください。

●**播種量**：穂数が多くなりすぎる圃場では、「カシマムギ」の標準量（8 kg /10a）より播種量を少なくしてください。播種量を少なくすることで、倒伏の軽減や粒の充実が期待できます。一

方、播種期が遅くなってしまった場合には、播種量を増やして対応します。

●**基肥**：「カシマムギ」と同等（窒素量6～7 kg /10a）を基本として、圃場の肥沃度に合わせて増減します。

●**追肥**：「カシマムギ」より粒がやや小さいので、追肥により粒の充実・タンパク質含量の向上に努めてください。茎立期より後で、特に出穂期頃の追肥が効果的です。施用窒素量は2～4 kg /10a程度が目安です。葉色が「カシマムギ」より淡いので、追肥量は、葉色だけでなく、全体的な生育量で判断するようにします。

その他の管理：凍上害を防ぐためには麦踏みが効果的です。また、赤かび病には強くありませんので、薬剤防除を必ず行うようにしてください。なお、防除適期は六条大麦では出穂～穂揃期に開花を確認した時です。

表1 「カシマゴール」の生育・収量・品質（水戸H19～23年産の平均）

品種名	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	千粒重 (g)	収量 (kg/10a)
カシマゴール	4.18	6.02	89	4.1	706	28.0	589
カシマムギ	4.20	6.02	86	4.3	622	30.1	586

耕種概要 播種期：11月6日～9日 播種量：8 kg /10a 播種様式：条間30 cmドリル播
基肥施肥量 N-P₂O₅-K₂O：6-6-6 kg /10a 無追肥

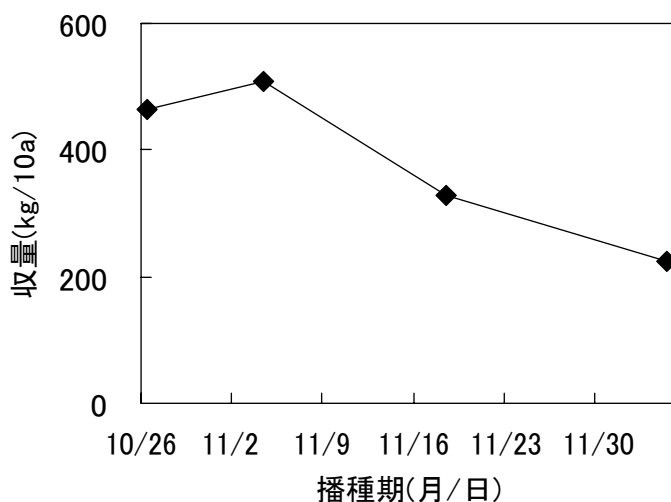


図1 「カシマゴール」の播種期と収量

耕種概要 播種様式：条間30 cmドリル播き
播種量：4～10 kg /10aの試験区平均値
施肥窒素量：基肥6 kg /10a、無追肥

(3) 県産麦の販売状況と課題

全農茨城県本部 米穀部

1. 県産麦の販売状況について

23 年産麦の販売は、原発事故の影響による大幅な引取遅れが懸案事項となっていました。その為、国、実需者、集荷団体が協議し、「一括所有権移転」による引取促進を図り、本年 8 月末時点で実需者への結び付きが全て完了しています。

本県では、23 年産で 68 点の放射性物質検査を行い、全て国の暫定規制値 (500Bq/kg) 以下の結果となりましたが、本年 4 月の基準値見直し (100Bq/kg) もあり実需者の中には県産麦の使用を見合わせる動きも出ています。

24 年産では全ロット検査 (計画 424 ロット) が実施されており、県産麦を安心して使っていただけよう実需者へ情報提供を行いながら販売を進めています。

2. 県産麦の評価と課題について

本県では、25 年産において約 23,714 トンの販

売が予定されています。

一方、実需者の購入希望数量は 15,277 トンとなっており、需給の乖離が 8,437 トン発生しています。(表 1)

県産麦は、以前より実需者から品質 (特にタンパク値) のバラつきや大幅な契約未達成を指摘されており、低い産地評価が入札における落札残や価格下落に大きく影響していると考えられます。特に生産量の 6 割以上を占める小麦は、5,000 トン弱の供給過多となっており、新品種「さとのそら」への移行とあわせ栽培技術の向上と適地適作の取組みがより重要となってきます。

また、小粒大麦については、「カシマムギ」を中心に新品種「カシマゴール」導入による収量の安定を図ること、購入希望の減少が著しい大粒大麦の「ミカモゴールデン」については、需要に応じた生産に取り組むことが必要であると考えられます。

表 1 25 年産茨城県民間流通麦販売予定および購入希望数量 (H24. 9. 4 現在)

(単位：トン)

麦種	銘柄名	販売予定数量		購入希望数量	差し引き (ミスマッチ)	※ 24 年産 ミスマッチ
		面積 (ha)				
小麦	きぬの波	395	1,406	200	1,206	470
	さとのそら	4,042	13,868	10,096	3,772	5,434
	その他(ゆめかおり, ユメシホウ)	3	9	9		-588
六条	カシマムギ	920	1,968	2,159	-191	-3,112
	カシマゴール	866	2,738	1,545	1,193	258
	その他(マサカドムギ, シルキースノウ)※	17	42	30	12	62
二条	ミカモゴールデン	1,341	3,654	1,238	2,416	1,554
	その他	8	29		29	-20
計		7,592	23,714	15,277	8,437	4,058

※ 25 年産はマサカドムギ, 24 年産はシルキースノウ

3. 優良種子生産に向けての取り組み



JA茨城みずほ種子生産部会
部会長 **海老根 克己**

JA茨城みずほ種子生産部会は、昭和60年代前半から、常陸太田市旧金砂郷地区で、「常陸秋そば」及びダイズの種子生産に取り組んでいます。

平成24年度は、「常陸秋そば」生産者は52名、受託面積23.85ha、ダイズ生産者は8名、受託面積2.0haで、品質に優れた種子の安定生産・確保に向け、努力を重ねています。

「常陸秋そば」は、金砂郷地区在来のソバから系統選抜により育成された品種であり、昭和60年に茨城県の奨励品種に採用されて以来、当地で優良種子の生産を続けて来ました。

ダイズについては平成23年度までは「納豆小粒」の種子生産を行って来ましたが、今年からは「タチナガハ」の種子生産を行っています。

1. 優良な種子生産のための活動

1) ソバ種子生産のポイント

①栽培管理

異品種の早期発見・除去のために、必ず畦幅60cm前後の条播とし、生育促進と倒伏防止のため、必ず中耕・培土を行います。

近年は、8～9月が高温傾向であるため、徒長の防止と、分枝数確保による花数の確保、結実の促進が重要となります。

そのため、必ず適期・適量播種を守り、施肥については、地力や前年の生育を見ながら施用しています。

石灰窒素や緑肥作物を上手に活用することで、地力の向上と連作障害の軽減に努めています。

②圃場審査

各支部ごとに役員が立ち会い、関係機関との連携のもと、開花期と成熟期に圃場審査を実施しています。前年の被害に応じ、イノシシ対策として電気牧柵の早期設置を呼びかけています。

③品質を高める乾燥・調製

収穫後は品質の維持・向上のため、天日乾燥としています。各自が唐箕選別を行った後、JAライスセンターで共同選別を行っています。

種子としての品位・品質を守るため、必

表1 平成23年度種子生産実績

種別	品種名	会員数(人)	面積(ha)	契約数量(kg)	生産数量(kg)
ソバ	常陸秋そば	56	23.85	23,850	22,658
ダイズ	納豆小粒	8	2.0	2,200	2,250

ず目視で選別の状況を確認し、選別機の微調整を行いながら進めています。

④発芽率調査と生産物審査

発芽率調査では 90% を上回る発芽率があることを確認します。

2. 優良種子の安定確保のために

種子生産状況は表 1 の通りです。優良種子を生産するためには労働力と手間がかかるため、担い手の確保・育成、栽培面積の維持・確保が最大の課題となっています。

3. 部会活動

平成 22 年 7 月、それまで別々の部会として活動していたソバとダイズの部会が一つとなり、先進地研修の開催などにより、情報交換と勉強の場を設けています。

以上のような優良種子生産のための長年にわた

る地道な活動の成果と地域活性化のための地元への高い貢献が認められ、平成 23 年度、種子生産部会に対し、「茨城県功績賞」が贈られました。

4. 「常陸秋そば」広報・宣伝のための活動

「常陸秋そば」発祥の地である赤土地区において、平成 11 年から毎年、種子生産部会員を始めとするソバ生産者と関係機関が連携して、「常陸秋そばオーナー制」を開催しています。

風味良く味の優れた本場の「常陸秋そば」を、地元ソバ生産者と交流しながら自分の手で種をまくところから育てることができる体験メニューはここにしかないためリピーターも多く、「常陸秋そば」の認知度向上と消費拡大はもちろん、オーナー制をきっかけに何度も足を運んでくれる方も徐々に増えるなど、地域の活力向上に一役買っています。



ほ場審査の様子



大豆種子生産ほ場



茨城県功績賞

4. 協会ニュース

(1) 水稲ほ場審査立合から

農業改良普及センターの普及指導員（審査員）により水稲ほ場審査が行われました。

協会は、このほ場審査に立ち会いました。第1回が出穂期、第2回が糊熟期に実施されました。採種ほ場では異株の除去や病害虫、雑草の有無な

ど、品種本来の特性を維持するための管理が徹底して実施されているかどうか、実際にはほ場に入り審査が行われました。8月下旬にはほ場審査が終わり、次は生産物審査の段階に入ります。

(2) 茨城のそばまつり2012

新そばの季節となりました。県内各地域で新そば祭りが開催されます。香り・風味・甘みと評価

の高い「常陸秋そば」をどうぞご賞味してみてください。

常陸秋そば振興協議会

開催名	期 日	会 場
復興いばらき県民まつり 2012	11月3(土)～4(日)	笠間芸術の森公園（笠間市）
常陸秋そばフェスティバル 2012	11月10(土)～11(日)	宮の郷工業団地（常陸太田市）
里美新そば祭	11月10(土)～11(日)	里美ふれあい館イベント広場（常陸太田市）
第24回竜神峡紅葉まつり	11月1(木)～11月30(金)	竜神大吊り橋（常陸太田市）
第15回すいふ蕎麦まつり	平成25年2月1(金)～ 2月28(木)	竜神大吊り橋周辺まつり参加店 （常陸太田市）
秋そば収穫祭	11月25(日)	奥久慈茶の里公園（大子町）
北斗星新そばまつり	11月23(金・祝)	みわ☆ふるさと館「北斗星」（常陸大宮市）
初心者対象「そば打ち体験教室」	11月6(火)～22(木)(平日)	奥日立きららの里「きらら館」（日立市）
第33回「がんばろう！高萩！！復興産業祭」	11月10(土)～11(日)	市民体育館・中央公民館・文化会館駐車場 （高萩市）
マウントあかね収穫祭	10月21(日)	マウントあかね（北茨城市）
第36回土浦市産業祭	10月20(土)～21(日)	川口ショッピングモール（土浦市）
小町ふれあい祭り	11月24(土)	小野小町の里（土浦市）
美浦の常陸秋そばフェア	11月24(土)～12月23(日)	いさ美庵・あたりや食堂 JA茨城かすみ まごころ市（美浦村）
桜川市民祭 in いわせ	11月3(土・祝) 予備日11月4(日)	桜川市総合運動公園（桜川市）
新そば祭り	11月17(土)～11月18(日)	道の駅しもつま構内特設テント（下妻市）
八千代の秋まつり	11月23(金・祝)	八千代町中央公民館（八千代町）
JAまつり	11月23(金・祝)～24(土)	JA常総ひかり八千代地区センター （八千代町）
JAまつり	11月24(土)～25(日)	JA岩井野菜予冷センター（坂東市）
16周年記念事業手打ちそば祭り	10月14(日)	道の駅「さかい」（境町）
新そばまつり	11月18(日)	道の駅「ごか」イベント広場（五霞町）

(3) 協会のホームページがリニューアルされました。

協会では、事業内容をホームページで公開しています。10月10日から内容をリニューアルしま

したので、ご覧下さい。

(<http://www.ib-kokumotu.jp/>)